資料渉猟余話 その21

森田草平と会う

熊谷紀夫

「森田草平の墓が阿智村にあるはずだ。墓参りをしたいがどこにあるか知らないか」

ある方に尋ねられたが、恥ずかしいことに阿智村に住んでいながらどこにあるか知らなかった。

作家森田草平が昭和二十四年、阿智村駒場長岳寺の離れ座敷で亡くなって六十四年。草平は岐阜県生まれ、若くして上京、夏目漱石門下に入り、東京朝日新聞に『煤煙』を執筆してから世に知られるようになった。

昭和二十年（一九四五）五月二十五日の空襲で東京の自宅を焼け出され、伊賀良の惣教寺に疎開した。飯田に借家を探していたが昭和二十二年（一九四七）四月の大火で予定していた家が全焼。やむをえず六月に駒場へ、十一月より長岳寺の離れ座敷に移り二年あまり、ここで生涯を終えた。

長岳寺の入住職に草平の墓の場所をおききすると「山の中でなかなか分かりづらいが、長岳寺の元の墓地にあります」

教えていただいたあたりを何度か探して、林の中に一基だけ落ち葉にうずまりポツンと建っている『草平墓』を見つけることができた。墓が建てられた場所は檀家の墓地でもあり、かつては多くの石塔が並んでいたところだろう。中央自動車道が出来ることで、長岳寺が現在地に移築され

森田草平の墓

た。当然檀家の墓地も新しい墓地に移転してしまった。

草平は著名な作家であり、戦後は伊那谷の文化人として活動した。亡くなると盛大な日本共産党葬で世間を驚かせた草平もすでに忘れられた過去の人になってしまったのだろう。

訪れる人も墓参する人も管理する人もなく、新しい墓地に移すこともなく、このまま『草平墓』は林の中に埋もれてしまうのだろうか。

草平の遺骸は、飯田の火葬場で荼毘にふされ分骨して東京と長岳寺の墓地に埋葬された。東京雑司ヶ谷霊園（夏目漱石の墓のそば）の森田家の墓地に「浄光院寂然草平居士」の戒名。長岳寺の戒名は「三味院輪廻草平居士」となっている。

この二つの戒名の違いについて、草平の出生地岐阜市鷺山にある『森田草平記念館』館長森崎憲司さんにお伺いすると

「戒名が二つあることは知らなかった。不思議なことだ。考えられるとすれば、信州長岳寺の葬儀は日本共産党の党葬という党が前面にでた大々的な葬儀でした。その後東京で家族葬のような葬儀をしています。その時に東京の寺でもう一つの戒名が付いたのではないかと想像できます」

昭和五十年、草平没後二十五年に飯田図書館主催で「森田草平を偲ぶ展示会」が開催された。主催者はせいぜい三十点位集まるのではと考えていたが百点に近い遺品が展示された。これだけの遺品が飯田を中心に多数あったのは…。長岳寺住職故山本慈昭翁は次のように記している。

「先生が東京から疎開してこの地に来られた頃は、物資が不足して何もかも統制時代であったからなかなか思うように物資が手に入ら

ない。先生はご承知の通り文学者として世に聞こえておられた方であるが、当時ご子息が病床に長く臥せられており、その栄養補給のため充分の食料を確保しなければならなかった。その上、ご自分の煙草はお尻の穴から煙が出る程、一日に何十本となくすわれ、お酒の方もなくてはならない。その酒も今のような上酒なんぞ余りない時であるから、ドブロクを仕方なくのんでおられた。このための食料確保のため、先生はその人達から揮毫を依頼され、それと引き換えに食料を確保した。（中略）結局食料を得んがために遺されたものがしかも非常に多いということであった」『郷土史巡礼』第四十七号「森田草平をしのぶ展示会」

百点以上におよぶ草平の遺品遺墨がこの谷に残されているはずである。たくさんの遺墨や遺品に機会を見つけていつか会いたいものだ。